

往年の名車が再び東北を走る

ラ・フェスタ エスターテ

クラシックカーレース「ラ・フェスタ エスターテ」が、7月13日～15日の期間で開催されました。平成22年まで「ラ・フェスタ ミツレミア」と題し、開催されていたこの催し。東日本大震災で走行できなくなった道路などがあり、震災後は関東甲信越に拠点が移されましたが、東北での開催を待ちわびる多くの人たちの声に応え、走行距離を変更し、再び東北で開催されました。

7月14日、チェックポイントの白石城では、往年の名車を見ようと駆け付けた多くの市民などが、通過する車に大きな声援を送っていました。



▲甲冑工房片倉塾の皆さんも駆け付け参加者をお出迎えしました

プロの音色を間近で体感！

はるかぜ保育園でハープ演奏会

7月24日、ハープ奏者の石塚希さんいしづかのぞみによるハープ演奏会が、白石はるかぜ保育園で開催されました。7月の誕生会に合わせて企画された今回の演奏会。この日は、石塚さんが0歳～5歳児約80人の前で、「きらきら星」などの演奏を披露。園児たちは、演奏に合わせて自然に歌を口ずさみ、「今度の誕生会も来てね」と笑顔で話していました。半澤京子園長はんざわきょうこは、「普段ふれる機会が少ない楽器にふれることで、想像力や感性豊かな子に育つ手助けになればうれしいです。生で感じ、貴重な経験になったと思います」と話してくれました。



▲プロのハープ演奏に聴き入る園児たち

プロの技を学び楽しさを実感

仙台ベルフィーユバレーボールクリニック

8月4日、バレーボールをしている女子中高生を対象にした「仙台ベルフィーユバレーボール教室」(公益財団法人白石市文化体育振興財団主催)がホワイトキューブで開催されました。教室には、市内外の14の中学校と高校から約120人が参加。「仙台ベルフィーユ」の諸隈英人監督もろくまひでとや選手9人から、基本動作や個々のレベルに応じた練習方法などを学びました。参加者は、「プロ選手やほかのチームの生徒との交流を通じ、バレーボールの楽しさをあらためて感じ、将来の夢もふくらみました」と話してくれました。



▲プロ選手からスパイクの打ち方を学ぶ選手たち

短冊に願いを込めて七夕の星に託す

武家屋敷で七夕まつり

8月6日から8日の3日間、七夕まつりが武家屋敷で開催されました。この催しは、地元の伝統文化を後世に伝えようと、公益財団法人白石市文化体育振興財団が企画。7日は、西保育園の4～5歳児約30人が訪れ、「ゴバスターになりたい」「けいさつかんになりたい」など、さまざまな願いごとを書いた短冊をササの葉に飾り付けました。飾り付けた後は、園児たちにかき氷が振る舞われ、園児たちは、「あまくておいしい」とうれしそうにほおぼっていました。期間中は園児たちのほか、多くの家族連れなどが七夕の星に願いを託していました。



▲願いを込めた短冊を飾り付ける園児たち

花がつなぐ心の交流

南中学校・花いっぱい運動



▲ヒマワリをプレゼントし、笑顔の花を咲かせる生徒たち

7月25日、白石南中学校2～3年生約40人が日ごろからお世話になっている地域の人たちに、感謝の気持ちを伝えようと、学校周辺の越河・齋川地区の一人暮らしの高齢者宅などを回り、ヒマワリのプランターをプレゼントしました。生徒たちは、「いつも見守ってくれてありがとうございます」と声を掛け、プランターをプレゼント。受け取った地域の方は、「地域のことを考えてくれてとてもうれしい。大きな花が咲いてほしいです」と笑顔で話していました。26日には1年生15人も高齢者宅などを回り、地域の人たちと交流を深めていました。

100歳おめでとうございます

須貝武治さんに松竹梅敬老祝金を贈呈



▲みんなで100歳を祝いました

8月1日、満100歳を迎えた須貝武治さんすがいたけじを風間市長が訪ね、祝詞と松竹梅敬老祝金を贈り長寿を祝福しました。武治さんは山形県最上郡最上町のご出身で、結婚後は3人の子供を育て、現在は孫が5人、ひ孫が6人います。現在は介護老人保健施設あくらホームに入所され、リハビリやレクリエーションに積極的に取り組んでいます。長生きの秘訣は、好き嫌いをせずに食べること、社交ダンスやゲートボールなど、身体を動かすことを心掛けてきたという武治さん。この日は、ご家族や施設職員などが武治さんの長寿をお祝いしました。

癒やしの時間を楽しむ

公立刈田総合病院で第42回ロビーコンサート



▲きれいな歌声を披露する合唱団の皆さん

8月7日、「第42回ロビーコンサート」が公立刈田総合病院で開催されました。この日は、キューブ合唱団の団員21人が、入院患者やその家族など約60人の前で、「花は咲く」「ふるさと」など8曲を合唱。来場者は、団員たちの歌声に合わせて、歌詞を口ずさんだり、手拍子を打ったりするなど、楽しいひとときを過ごしていました。同病院では、音楽が病気を治す手助けをしてくれると考え、ロビーコンサートを開催しています。演奏や歌声を披露していただける方は、情報企画課(☎25-2145)までお問い合わせください。

元気をもらってありがとう

第一児童館放課後児童クラブの児童が清風を訪問



▲手遊びでふれあう児童たち

8月8日、第一児童館放課後児童クラブせいきくを利用する児童26人とすぎのこ母親クラブはなつばた(佐々木とし子会長)の会員8人が、介護老人保健施設「清風」を訪問しました。世代間交流を目的として平成18年から続くこの訪問交流。今年は母親クラブによる大型紙芝居のほか、児童が「白石うーめん体操」を元気に披露しました。その後、歌に合わせた手遊びも一緒に楽しみ、最後は、母親クラブの皆さんと一緒に児童たちが手作りしたメッセージカード付き和紙トレイを利用者にプレゼント。利用者は、「元気をもらってありがとう」と笑顔で話していました。